

日本文学演習

2単位 (選択) 3年(前期), 4年(前期)

堤 和博・准教授 / 人間文化学科

【授業目的】 日本古典文学作品の解釈力の養成**【授業概要】** 日本の古典文学作品を解釈するための基本的な知識・方法について演習する。具体的には、当時の資料及び現在の辞書・注釈書・索引類等を参考にしながら、帰納法を用いて解釈していく方法を身につけるようにする。ところで、演習は、担当者が充実した内容の調査・考察を行うことを目指すのは勿論のこと、それを他の受講者に分かり易く説明するところまでが目標となる。したがって、レジュメの作り方・発表の仕方などについても、担当者個々の創意工夫と努力を求める。**【キーワード】** 日本古代文学, 解釈, 発表**【履修上の注意】** 単に注釈書を読み、辞書を引くだけの解釈をするのではない。また、第1回目を除く各回担当者は、前回担当者よりもレベルの高い発表を目指すこと。受講者の人数・希望(卒業研究の予定テーマ)等を勘案し、上記内容等に変更を生じる場合もある。ただその場合も、古典文学の解釈力を養うという目的に変更はない。**【到達目標】**

1. 帰納的思考方法の習得
2. 自己の解釈を説明する能力の習得

【授業計画】

1. 古典解釈法の基本 1—辞書の使い方—
2. 古典解釈法の基本 2—用例の集め方—
3. 古典解釈法の基本 3—帰納的解釈法—
4. 担当者発表 1—『土左日記』—
5. 担当者発表 2—『伊勢物語』—
6. 担当者発表 3—『大和物語』—
7. 担当者発表 4—『平中物語』—
8. 担当者発表 5—『蜻蛉日記』上巻—
9. 担当者発表 6—『蜻蛉日記』中巻—
10. 担当者発表 7—『蜻蛉日記』下巻—
11. 担当者発表 8—『源氏物語』第一部—
12. 担当者発表 9—『源氏物語』第二部—
13. 担当者発表 10—『源氏物語』第三部—
14. 担当者発表 11—『狭衣物語』前半—
15. 担当者発表 12—『狭衣物語』後半—

16. レポートに関する注意

【成績評価】 発表及びレポートの出来映え**【再試験】** 無**【教科書】** 無**【参考書】**

- ◇ 『角川古語大辞典』(角川書店)
- ◇ 『日本国語大辞典』、『同』第二版(小学館)
- ◇ 小学館『古語大辞典』
- ◇ 角川書店『新編国歌大観』

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220099>**【連絡先】**⇒ 堤 (4-404, tsutsumi@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL